

新名称「横浜善光寺留学僧育英会」に 決定

横浜善光寺の黒田武志方丈が理事長を務める、「善光寺海外留学僧派遣育英会」の名称が平成五年二月六日に開催された理事会において、「横浜善光寺留学僧育英会」に変更されることが決まった。日本の若き僧侶を海外へ送り、仏教の原点にもどり互いを尊重し理解し合い世界平和へ導くことを願ってスタートしたこの会。設立九年を迎え、海外からの日本留学希望者が年々多くなってきたことから、この新名称が誕生することとなった。

新名称決定と同時に、名誉顧問、顧問、理事、参加が新たに委嘱された。

横浜善光寺留学僧育英会新名誉顧問は次のとおり。

大本山永平寺貫首

丹羽廉芳禪師

大本山総持寺貫首

梅田信隆禪師

天台宗座主

山田恵諦猊下

東京大学名誉教授・東方学院院长

中村 元先生

大韓仏教曹溪宗

尹月ユングオルハ下禪師

スリランカ大菩提会会長

ヒデイガレー・パナテッサ大僧正

タイ国ワットパクナム住職

プラタムパンヤーボデー大僧正

森山南米開教総監の激励歓送会 開かれる

この春、南米開教総監としてブラジルの南米別院仏心寺に赴任した森山大行老師を激励して歓送する会が平成五年三月十二日、横浜

中華街で開催された。この会は、横浜善光寺の黒田武志方丈が中心となり、善光寺留学僧育英会が主催したものだ。黒田方丈と森山総監は、駒沢大学茶道部の先輩後輩という間柄で、長年の道友同士。当日は、善光寺育英会の関係者や森山総監とごく親しい友人知人、約四十名が会場である「華正楼」の新館に集まった。

まずはじめに発起人を代表して、善光寺留学僧育英会の常務理事である千葉県柏市、龍光寺住職・佐藤俊明老師が挨拶。

「海外布教の若返りのために喜ぶべきことと思います。十年前、善光寺さんの紹介で森山師に会ったときから、「これは絵になる風貌だ。将来、輸出できる禅の顔だ」と感じましたね。これから開教総監となり、「ビシヨップ森山」つまり「森山禪師」と呼ばれることになるわけですが、これはたいへんすばらしい名譽なことです。しかし、その一方で、地球

の裏側の国に出向くということは、さまざまに困難も待ちかまえていることと思います。どうか、苦難も乗り越えて、四年の任期を少なくとも三期ぐらいは務めるぐらいの気持ちでがんばってください」

と激励の言葉をのべられた。

次いで、森山老師が出家する前の学生時代から三十五年来の友人という仙台市 大満寺住職・西山広宣氏（東北福祉大学助教授）が、「互いに切磋琢磨しあったかけがえのない友」と交遊の一端を披露。

善光寺の黒田方丈が出席者一人ひとりを紹介したあと、森山総監の道友、神奈川県 吉祥院住職・小秀夫老師が乾杯の音頭をとった。

森山総監は、

「日本の仏教界のことは諸老師におまかせします。ブラジルのことはどうぞ私におまかせください」

とユーモアまじりに決意のほどを語り、ごく親しい友人たちの心のこもった集いに終始、感激の面もちだった。

黒田理事長、辞令を渡すため 韓国、タイ国へ

理事会で決まった新名誉顧問の辞令を渡すためさっそく二月、横浜善光寺留学僧育英会の黒田武志理事長が、韓国の大韓仏教曹溪宗靈鷲叢林通度寺の尹月下禪師のもとを訪れた。次いでマレーシアのメタ・ピラ禅堂視察の序でタイ国ワットパクナム住職プラタム・パンヤーボデー大僧正と会見、辞令を手渡した。お二人とも国を代表する高僧。両氏は快く黒田理事長を歓迎し、これからも育英会を通じて親睦を深めていこうと誓いあった。

また、三月にはスリランカ大菩提会会長の



プラタムパンヤーボデー大僧像正



尹月下禪師

ヘデイガレー・バナテッサ大僧正が来日。四月二日(金)横浜善光寺を訪れ、黒田方丈と親しく歓談され、今後も相互の交流をはかり、世界平和のために力を合わせていきたいと激励の言葉を交わし合った。



ヘデイガレー・バナテッサ大僧正と

東隆眞先生、中外日報と大法輪で まぶこころを説く

長年の夢だった韓国の曹溪山松広寺拝登を、昨年八月に果たした駒沢女子大学副学長・東隆眞先生(横浜善光寺留学僧育英会理事)の論文『韓国松広寺と普照国師知訥』が、四月九日、十二日、十三日と三回に亘って中外日報に連載された。曹溪山松広寺は、大韓外日報に連載された。曹溪山松広寺は、大韓仏教曹溪宗の三大寺院の一つで、僧宝の寺院としても知られ、韓国の禅の根本道場として位置づけられている崇高な仏教寺院である。松広寺の開山の祖は普照国師(一一五八―一二一〇年)。智訥禪師と呼ばれ、曹溪宗開山の祖ともいわれている高僧。

松広寺の前住持から、知訥禪師の著作を集めた全集『普照全書』を恵与された東先生

は、その中におさめられている『真心直説』についても紙上でわかりやすく教えてくださっている。人間が誰でもそなえている『まごころ』。しかし、本当のまごころの力を発揮できる人もいれば、そうできない人もいる。どうすれば、発揮できるのか：先生のご文章によつて、日本や台湾にも伝わっている、まごころの真の意味と大切さを、読者は改めて気づかされるだろう。

また、東先生は、知訥禪師の禪と、日本の道元禪師の禪の共通点と差異点を示し、両者を比較考証してみることも、日韓の相互理解と交流をはかることに役立つと述べられている。そして最後に次のように結ばれている。「いま、地球、人類の危機的状況のなかで、宗教、仏教の位置づけと役割が問われている。(中略) 仏教者である限り、僧侶であろうと学者であろうと檀信徒であろうと、それぞれ

重大な責務を担っているはずである。大乘仏教と上座仏教を問わず、日本と韓国とを問わず、縁のあるところから、できるところから、釈尊の真心に通じる道を探っていかなければならない。このたびの韓国・松広寺拝登は、そのことを私に教えてくれたのであった」

『大法輪』六月号には「台湾・台北の仏教点描」と題し、昨年十二月に、黒田方丈と訪問した台北市の仏教事情などを発表されている。ここには、「真心直説」の関係資料を蒐集するなかで、台湾の僧・林秋梧法師と、駒沢大学第八代学長・忽滑谷快天博士との深い師弟関係を知ることとなった経緯などが述べられている。林秋梧法師は普照国師の著作『真心直説』の注解書『真心直説白話注解』を著わしている。

善光寺ニュース

育英生韓仁徹氏がフィラデルフィアに 観音寺を建立



善光寺留学僧育英会第八回育英生である、
韓国の韓仁徹氏がこのたびアメリカのフィラ

デルフィアに

「観音寺」を

建立した。

韓仁徹氏

は、立正大学

大学院文学研

究課で博士後

期過程仏教学

を専攻。物質

的には繁栄を

享受しながら、

その反面、



▲観音寺

精神的には孤独感と淋しさを抱いている現代人を、仏教の教えによって救っていきたいと願い、絶えず未来社会を見つめ、これからの仏教徒のあり方を考え続けてきた。私たちはもともと世間に対して、精神的な依るところとして貢献しなければいけない。つまり多くの人びととその苦しみをともに味わい、その苦痛から立ち上がる智慧を彼らに揭示しなければならぬ。観音寺——カンノンブツデイス トテンブルは、きつとアメリカ在住の多くの人に心の安らぎを与える場所となるだろう。

浅草寺「仏教文化講座」で 黒田方丈が講演

東京・浅草寺が主催する第四四九回「仏教文化講座」が、四月二十三日（金）に新宿駅西口の安田生命ホールで開催され、黒田方丈



が「海外に留学僧を派遣して」と題して講演。育英会を設立した動機や現状などを、心を込めて語った。

育英会顧問の小谷亀太郎氏 駒沢女子大学を訪問

善光寺留学僧育英会顧問で、タイ・バンコクにある世界仏教徒連盟本部事務次長の小谷亀太郎氏（バンコク在住）は、来日中の五月十七日（月）、黒田方丈と共に駒沢女子大学を



訪問し、東隆真副
学長（善光寺留学
僧育英会理事）の
案内で、学内を見
学した。

**育英生引田弘道氏が日本印度学
仏教学会賞を受賞**

五月二十二（土）、二十三（日）の両日、高
野山大学で開かれた日本印度学仏教学会（印
度学・仏教学における最大の学会）、第四四回

学術大会において、善光寺留学僧育英会の奨
学生・引田弘道氏（愛知学院大学文学部助教
授）に、日本印度学仏教学会賞が授与された。
昨年十一月の東方学会賞（東方学会）に次ぐ
受賞である。心からお祝い申し上げます。

**不動明王大祭並びに
大般若会法要を厳修**

五月二十八日（金）午前十一時から、恒例
の身代り不動明王大祭並びに大般若会法要が



金岡秀友先生

佐藤俊明老師を大導師に厳修された。多勢の皆様が参集。家内安全、身体健全、商売繁昌など、御祈願・御祈禱が執り行なわれ、東洋大学・金岡秀友先生の講演に、耳を傾けた。

不動明王大祭香語

火中現身眼発瞋

火中身を現じ眼、瞋を発す

金剛宝剑払根塵

金剛の宝剑、根塵を払う

明王威徳昭昭顕

明王の威徳、昭昭として

成寿山頭緑樹新

成寿山頭、緑樹新たなり

恭しく惟れば、山門本日 身代り不動明王

大祭の吉辰に相値う。
 謹んで大般若経を転読し、聖不動経・慈救呪・消災妙吉祥陀羅尼を誦誦し、その功德・回らし以て身代り不動明王に供養し奉る。
 専ら祈る。正法興隆、万邦和楽、国土安隱、

山門鎮静、消災消除、諸縁吉祥ならんことを。更に祈る。当寺総檀家中、本日参詣の善男子、善女人、諸願成就、如意吉祥ならんことを。至禱至禱

島崎義孝氏が善玄寺の住職に

横浜善光寺留学僧育英会の第3回生で成寿でお馴染みの島崎義孝氏が少林山養玄寺に住職として入山されました。今後のご活躍を期待いたします。

